

COVID-19陽性患者もしくは疑い患者に対する手術時の感染対策Case Report集計結果(8月31日から9月6日回答分)

	症例数	手術	
陽性患者	7	気管切開	3
		骨折手術	2
		肺外科手術	1
		ECMO挿入	1
COVID-19疑い患者	4	脳外科手術	3
		帝王切開	1

手術室で気管挿管	3	McGrath	3
(喉頭展開1回で挿管)	(3)		
区域麻酔	3		
既挿管	4		
局所浸潤麻酔	1		

PPE	フェイスシールド	4
	ゴーグル	3
	シールド付きマスク	3
	記載なし	1
	N95	9
	PAPR (動力付き)	2
	手袋2枚	10
	手袋1枚	1

事前シミュレーション実施	あり	10
	なし	1
	記載なし	0

自由記載

準備	器材	電子カルテにビニールをかけたが、画面の文字の判別と操作に難渋した。
		放射線防護服着用によるPPEは疲労度が強く、ゴーグルが曇った。
		気管挿管、閉鎖式吸引装置、フィルターが装着済で入室され、手術時間が短かったので比較的円滑に対応できた。
感染関連		気管挿管時に頭部をビニールで被覆した。
		当院には陰圧手術室がないため、「MINTIE」という簡易式陰圧前室を設置して行った。

陽性	気管切開	待機的に局所麻酔のみで気管切開を行った。局所麻酔下では気管を開放した際に患者自身の咳嗽反射を完全に抑えることは不可能で、挿管下全身麻酔での気管切開術に比して難しい面があると感じた。
	気管切開	耳鼻科学会のガイドラインに準じて行った。
	肺外科手術	短時間の麻酔管理及び可能な限り外気に患者呼気が出ないように気道管理した。

COVID-19が全く流行していない地域の現状		当該地域より流行している地域の人との接触やそのような地域への外出があった場合は陽性疑いとして対応している。院内でPCRは行えず、結果を得るのに長いと3日を要する。外科、整形外科骨折手術はすべてフルPPEで対応している。県内の発生はほぼないが、前述の定義に基づくと週に数回フルPPEで対応しており、常勤麻酔科医一人では手術の間の電話対応などの業務も行えない。
-------------------------	--	--